

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第28号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《 広報宣伝部 》

発行日：2025 年 10 月 第 28 号

担当窓口：望之門保育園 さえき たけし 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど

上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

セツルの家は原点回帰の場

私が大地協で琵琶湖セツルの家で活動を始めたのは、愛染橋保育園の菅良介先生がとても元気でご存命だったころです。菅先生は海の者とも山の者ともわからない私を、そして私も自分自身をまだ何者かもわかっていない頃に、そんな私に対してセツルの家で「今日はよく来てくれたね。道の混み具合はどうでしたか。何時に起きましたか。」など笑顔でいろいろと声をかけられて出迎えてくれたことを、セツルの家で暖かい風が頬を撫でる度に、とてもいい思い出として思い出させてくれます。実はその頃、新参者の私にとって大地協は熱きセツラーたちがわんさかいて、正直とても近づきにくい（関わりにくい）場でありました。立場だけ与えられた、そこにいるだけの新参者の私にとっては、菅先生のそういうシンプルなお気遣いというかコミュニケーションをとっていただくことがとてもありがたかったのです。おそらく菅先生の暖かそうな瞳の中に、これからはあなたたちがセツルの家を支えていくのだよといった厳しいメッセージも込められていたような気が今となってはしています。

しかしそういった偉大な先人たちの思いを受け継いでいくのはとても難しいことだと私自身は感じています。どう足掻いてみても先人と同じにはなれないからです。果たして私は多くの施設の若い職員さんの声に耳を傾けその職員さんたちに先人たちの思いを伝えられているだろうか、果たして人を育て支える仕事をしていると思っているがすべての人に本当にそれができているのだろうか、果たして何のために生き何のために仕事をしているのかを私自身が整理できているのだろうか、それらすべてを琵琶湖の暖かい風が、私の頬を撫であまり考えすぎるなと包みながらも考えさせてくれます。答えは自分たちで導かなければならないですが、今となってはセツルの家はそういった原点を思い出させてくれる場であり、様々な人と人を出会わせてくれる場であると私は思います。

「今年も子どもたちがたいへんお世話になりました。」と先人たちにお礼を申し上げたいと、毎年思うのです。

社会福祉法人 柿の木福祉の園
長居子ども家 施設長 宮川 成雄

写真右 タイトル『宝石』

撮影者 宮川 真伽



楽しかった☆一泊保育

年長児になったら、一泊保育に行けることを楽しみにしていた子どもたちは、みんなでお揃いのＴシャツを作ったり、ペットボトルに絵を描いて手作りの虫ごをつくり、「早く 行きたいな。」「琵琶湖でいっぱい泳ぎたいな。」「どんな虫がいてるのかな？」と日が近づくにつれて、期待が膨らんでいきました。

当日、バスの中では、高層ビルが建ち並ぶ景色から山並みと広い琵琶湖へと変わると、「びわこ見えた！」と、窓に張り付いて見入っていた子どもたちでした。セツルの家に到着すると、さっそく水着に着替えて、琵琶湖で泳いだり、気持ちよさそうに浮き輪に入って、プカプカと浮いたり、友だちと保育者の所まで泳いで競争したりと、笑い声が絶えませんでした。砂浜では、いろんな形の石を見つけたり、大きな石を集めて積み上げたり、小さな貝殻を拾い集めてそれぞれに楽しんでいました。また、砂浜でスイカ割りもして、この日のために毎年、スイカ割りごっこをしてみんなで楽しんできたこともあって、スイカに見事に当たる子どもが多く、大玉スイカ２個とも、割ることができました！そのスイカがとても甘く、子どもたちと一緒におさぼって食べたのを覚えています。琵琶湖での水遊び後、五右衛門風呂に順番に入り、「丸いお風呂や！」と驚いている子どももいましたが、友だちと入るお風呂は楽しいようで、キャツキャツ言いながら肩までつかり、たくさん遊んで疲れた身体を癒し、気持ちよさそうに入っていました。お風呂上りには、砂浜で拾った石に好きな絵を描き、記念に持ち帰りました。夕食までの時間には、散歩に出掛け、大きな山並みを背景に辺り一面の田んぼがあったり、畑があったりと迫力ある光景に、大自然に囲まれているのが感じ取れました。道中、何かいないかと虫探しをしたり、カプセルを見つけて宝探しも楽しみました。夕食後のキャンプファイヤーでは、夜空を見上げてみると、ちらほらと星が輝き、子どもたちと星の見つけ合いっこをしたり、みんなで火を囲んで歌を唄ったり、グループごとに好きな手あそびなどの出し物もし、打ち上げ花火も見ても「きれ～い！」と興奮しっぱなしの子どもたちでした。就寝時には、お家の人がいないからと泣く子どももおらず、暑い中でしたが、明日はどんな楽しいことが待っているんだろうと、かわいい寝顔で寝入っていました。朝になると、静まり返った部屋に大きな波音が響き渡って目を覚まし、砂浜に行ってみると、朝日が昇り琵琶湖の水面がキラキラと輝いて、神秘的な光景に魅了されました。そして、朝の心地よい空気を感じながら、歯磨きや顔洗い、ラジオ体操をし、みんなで砂浜のゴミ拾いをし、朝ご飯はハムやレタスなどをパンで挟んでサンドイッチを自分でつくり、喜んで食べていました。帰る際には、セツルの家に「ありがとうございました!!」とみんなでお礼を言うと、「どういたしまして。また来てね。」(園長先生の声)と、どこからか聞こえてきて、あれ？誰？もしや琵琶湖の女神様？と不思議そうな表情でバスに乗り、帰ってきました。

こうしてたくさんの楽しかった思い出を胸に、たった一日だけのお泊り保育でしたが、みんな少しだけたくましくなったように見えました。家に帰ってから寝るまでずっと、一泊保育の話をし続けていたなどという話を保護者の方から聞くこともあり、子どもたちの心の中には、印象深い思い出として刻みこまれているようでした。園でも、子どもたちに振り返ってセツルでの話をすると、全員が「もう一回、行きたい！」と手を挙げていました。

今回の一泊保育を通して、園では、出会えない豊かな自然の中で、心身ともに開放して友だちと遊んだこと、お家の人と離れてお泊りし、身の周りのことを自分でできたという達成感、友だちや保育者とより深い関わりが持てたことなど、一泊保育でしか経験できないことがたくさんありました。子どもたちのこうした体験がこれからの自信の一つとしてつながっていったらいいと思います。



なみはや福祉会
安立保育園 宇都宮 涼子





セツルの家の思い出

= 活動20年を振り返って =

大地協個人会員で西成児童館の会の工藤です。2006（H18）年6月の大阪市立西成児童館が廃館後、有志のメンバーで「建物を持たない西成児童館」を立ち上げ、西成児童館の会とラポールの2つのボランティアグループを中心に毎年セツルの家を利用して今年で20年目になります。最初の2年は「わが町にしなり子育てネット」が主催で行いました。子育てネットで活躍されているお母さん方や、当時代表の小椋先生も引率していただき、市立西成児童館の頃のびわ湖キャンプを引き継いで開催できたことが今につながっています。

2008年度より大地協の加盟施設の用地取得により通年利用ができると聞いて、翌年3月に西成児童館の研修として利用しました。持参した小型ヒーターでは寒さに太刀打ちできず厚着して研修を行い一夜を過ごしました。翌年4月に利用した際は2班に分かれてボランティアについて意見を言い合い班ごとに発表。最後は本棟前の咲き誇る桜の下で集合写真を撮りました。今はスタッフの年々体力が落ちているので夕方になりましたが、当初は朝の5時から希望者で元気に魚釣り。きれいな朝焼けのびわ湖がとても印象的でした。

2018年の台風21号の影響により、閉所作業に行ったスタッフから桜の木や飛び込み台に大きな被害写真を見て悲しい気持ちになりましたが、翌年にきれいに修復されてより使いやすくなったセツルの家で活動を続けられることに感謝しています。

新型コロナの影響で3年間開催できず、ロコミで参加者を集めてきた私たちにとって大きな試練でした。再開した時にはメンバーも大きく入れ替わり、最初は少人数でのスタートでしたが、自然体験を通して子どもたちが成長し、翌年には友だちを連れてきてくれるようになり、少しずつ賑やかさが戻ってきました。

今年のキャンプ（8月10日～12日）は、雨雲レーダーとにらめっこの毎日でした。雨を避けながら花火をしたり、テントの下で流しそうめんをしたり、雨だからこそ楽しめる工夫をみんなで考えました。倉庫で行なったキャンドルファイヤーも、いい思い出になりました。子どもたちの笑顔と歓声が絶えない3日間となり、帰りのバスで「来年もまた参加したい!」という声を聞いたことが、ボランティアにとって何よりの励みになりました。

≪ 大地協個人会員 ≫

西成児童館の会 工藤 正和



2006年8月 キャンプ



2009年3月 一泊研修



2010年4月 満開の桜の下で



2013年8月 朝焼けに包まれて



2018年9月 台風21号被害



2019年8月 キャンプ



2025年8月 キャンドルファイヤー



2023年8月 新型コロナ明け

西成児童館の活動は
こちらから👉

セツルの家 今昔物語

地域福祉の諸問題（昭和 60 年版—セツルの家 15 周年記念号）にあるようにセツルの家は昭和 46 年にはじめられた。今年で 54 年の歴史を刻んだこととなる。私が始めて参加したのが昭和 58 年だから、セツルの家に 42 年通ったことになる。私より数年前に利用した保護者の記事の中に、子どもが江若鉄道の駅まで見送りに来る言葉があるので、それ以後廃線になり、湖西線が出来たようだ。バス利用もセツルの家近くで降りていたが、ある時から、何年かは国道の空き地で降ろされ、少し歩いた様に記憶しているので、湖西線の高架建設中の為だったのかもしれない。

昭和 32 年、北市民館で大阪市セツルメント協議会が発足し、昭和 45 年 9 月に大阪市コミュニティセンター研究協議会に改称、平成 7 年、大阪市地域福祉施設協議会と再改称された様に、組織そのものも 3 度の変遷を経ている。

次に、会員施設、メンバーを見るに、児童館はほとんど無くなり、今残っているのは都島児童館、四貫島有鄰館、愛染橋、港隣保館、ミード社会館、風の子、平和、育徳園、長居、北田辺、今川学園、今池、等の保育園、子どもの家、学童等の施設である。

又、人物についてみると、菅良介先生はじめ、小川居、奥田妙子、岡本千秋、西沢充子、古後昭子、宮川ヒサ、宮川長生、戸田円八郎、池田正子、小椋昭各先生方も幽明境を異にされ、今は居られない。

周りの、環境も、牛小屋の匂いも、木村ハウスも無くなり、近隣にはおしゃれな家々が立ち並び、逆にセツルの家が目立つようになり景色が変わってきました。大きな桜の木も台風でたおれ、昔の面影を残すのは、二代目の五右衛門風呂のみになりました。

建物は、耐震補強され、随分快適になりましたが、私が最初に行った開設日、菅先生から、「床がちょっと下がっているので、松野君ちょっと見てくれないか」と言われ、床下ると、柱を支える礎石から外れているではないか、ありあわせの道具で元に戻すと、「君は大工もやれるな」と褒められた。その後も行くたびに電気屋や水道屋等何でも^{こな}した。

セツルの家の一番の特色は、今川の三木先生時代から、職員はもちろんですが、施設長自らが、率先して、障子張りや布団直しをしてきた伝統でしょう。その頃は、カブト虫は付近の雑木林にわんさと居たし、以前には、蛍が木々に光ってクリスマスツリーの様だったと記事にある。夜は湖面を渡る風が涼しく、寒い位だったのが、今はクーラーを設置するほど温暖化で暑くなっている。少し前まではマムシもよく見かけ、少し前には、西成児童館のボランティアの方がマムシにかまれたことがあった。只、今年弊園の職員がムカデに噛まれる事件があったので毒虫には、十分気をつけてください。セツルの遊びの定番はなんといっても、水遊び、キャンプファイヤー、花火大会、スイカ割り、枕投げ、肝試し。登山。であったが、何時の頃からか背の高いマンションが建ち始め、墓地での最高のイベント、肝試しはどうとう無くなってしまった。

又、地域交流として、昭和 60 年代は、食料や、買い物は大阪から持ってこないで、地元で買いましようとの合言葉も、スーパーに押され、地元の店が無くなり、地域交流も無くなってしまった。

50 年に亘り、毎年 2000 人、のべ 10 万人の大阪の子ども達の間人形成にとって、これほど素晴らしい、楽しい場所は他にない。21 世紀後半を担ってくれる子どもたちに第二の故郷として、これからも、永遠に続いてくれること願いペンをおく。

社会福祉法人しんもり福祉会
平和の子どもの家 松野 五郎

